

徳島赤十字病院初期臨床研修プログラム：腎臓内科/透析

コース責任者：松浦 元一

研修期間：選択必修科（内科）として28週間のうち4週間
選択科として4週間から

I：一般目標 (GIO:General Instructional Objective)

医師として望ましい姿勢・態度と基本的な診療能力を身に付け、頻度の高い腎臓内科疾患を理解し、他の医師やメディカルスタッフと協調して適切な診療を行うことができる。

II：行動目標 (SBOs:Specific Behavioral objectives)

A. 基本姿勢・態度 研修医手帳を参照

B. 診察法・検査・手技

①主な医療面接・基本的な身体診察法

- 1) 一般内科疾患患者の医療面接、身体診察を正確に行うことができる。
- 2) 全身を系統的に診察し、所見を挙げるとともに正確に診療録への記載ができる。
- 3) 頻度の高い病態・疾患に対して、エビデンスに基づく標準的な診療を理解し、実施することができる。
- 4) 患者及び家族に病状や治療について正確に説明することができる。

②主な基本的な臨床検査

- 1) 一般内科診療に必要な検体検査、画像検査、病理検査等を選択しオーダーすることができる。結果を解釈することができる。
- 2) 腎臓疾患診断に必要な検査法を適切に指示し、結果を解釈できる。

※検査項目一覧

（尿検査、便検査、血算・白血球分類、動脈血ガス、血液生化学、血清学的検査、細菌学的検査、細胞診・病理組織検査、心電図、超音波検査、単純X線検査、CT・MRI など）

③主な基本的手技

- 1) 採血法（静脈血・動脈血）を実施することができる。
- 2) 注射法（皮内、皮下、筋肉、静脈確保、点滴・静脈内注射）を実施することができる。
- 3) 尿検査を実施し、結果を解釈できる。
- 4) 体液量の評価ができる。
- 5) 血液ガス分析を解釈できる。
- 6) 血液生化学、血液電解質検査を解釈できる。
- 7) 基本的輸液療法を指示できる。

- 8) 腎障害のある患者に対する薬物用量・用法調節ができる。
- 9) 血液浄化療法を必要とする各種病態を理解できる。
- 10) 血液浄化療法開始などにあたり、インフォームド・コンセント、共同の意思決定の意義を理解できる。

C. 主な症状・病態の経験

- 1) 急性腎障害
- 2) 慢性腎臓病（末期腎不全を含む）
- 3) 糸球体疾患（急性腎炎症候群、慢性腎炎症候群、ネフローゼ症候群など）
- 4) 尿細管・間質疾患
- 5) 尿細管機能異常症（尿細管性アシドーシスなど）
- 6) 水電解質異常（水バランスの異常:低 Na 血症など）
- 7) 水電解質異常（Na バランスの異常:細胞外液量減少など）
- 8) 水電解質異常（K バランスの異常:高 K 血症など）
- 9) 水電解質異常（Ca, P, Mg バランスの異常）
- 10) 水電解質異常（代謝性酸塩基平衡異常）
- 11) 高血圧および腎血管障害*
- 12) 基本的な泌尿器科的疾患・尿路疾患（多発性嚢胞腎など）

Ⅲ：学習方法（LS：Learning Strategy）

1) LS（方略）1：On-the-job training

■ 主な病棟業務

- ・主治医を含む指導医または上級医の指導のもと、OJT を中心として腎臓内科診療に参加する。診療チームの入院患者から常時2～3名を担当し、指導医または上級医とともに診断・治療にあたる。
- ・担当患者の医療面接、系統的身体診察や検査計画の作成を行い、SOAP形式で診療録に記録する。
- ・基本的な検査は指導医または上級医に相談のうえ自ら実施し、その他の検査についても適応を判断し、結果を解釈する。
- ・担当患者の一般X線撮影、超音波検査、CT・MRIなど画像検査の手技・読影方法を学ぶ。
- ・医療保険制度を理解し、診断書などの書類を指導医または上級医とともに作成する。
- ・担当入院患者が透析療法を行う場合などでは、透析室での研修を行うことがある。

■ 主な外来業務

- ・腎臓内科外来にて初診患者の医療面接と診療録記載を行い、指導医または上級医の指導のもと外来業務のシステムや手順を学ぶ。
- ・定期的に当直業務に参加し、指導医または上級医とともに内科系ER患者への初期対応を行う。救急車搬送患者には、救急担当当直医と協力して心肺蘇生を含む救急処置に参加する。

■補足

- ・透析関連手術や腎生検などに積極的に参加する。
- ・災害訓練等に積極的に参加し、要請時には指導医または上級医とともに救護班活動に従事する。

2) LS (方略) 2: カンファレンス・勉強会

- ・腎臓内科カンファレンスで、新規担当患者の症例提示を行い、問題点や診療方針についての意見交換を行う。
- ・毎日の申し送りで担当症例の要約を提示し、意見交換を行い、病態解釈や診療方針についてフィードバックを受ける
- ・定期的開催される勉強会、臨床カンファレンス・講演会、CPC等に積極的に参加し、常に医学知識をアップデートするとともに、広く臨床医学へ見識を深める。

3) LS (方略) 3: 学会・研究会・学術活動

- ・各種の院内研修（医療安全、感染対策など）に参加し、臨床医として必要な基本知識を身に付ける。
- ・腎臓内科の学会発表や症例報告論文の作成を通じて診療プロセスをレビューするとともに、適切なプレゼンテーション能力を身に付ける。

○週間予定表

	月	火	水	木	金
午前	透析業務 病棟診療	外来業務	透析業務	外来業務	透析業務
午後	透析業務 (腎生検) 病棟診療	透析業務 病棟診療	外来業務 病棟診療	透析業務 (腎生検) 病棟診療	透析業務 病棟診療

*外来・検査等の担当曜日は直属の上級医のスケジュールにより異なる。

*透析業務のなかにはプライミング実習と穿刺実習が含まれる。

*透析関連手術がある場合は、他業務より優先して参加する。

*月に1回、透析カンファレンス・腎病理カンファレンスを行う。

*月に2回、病棟カンファレンスを行う。

IV：学習評価 (EV：Evaluation)

EPOC による総合評価

- 1) 個々の診療記録と退院要約（サマリー）は、定期的に指導医の評価と承認を受ける。
※退院要約（サマリー）は、1週間以内に記載すること。
- 2) ローテイト研修終了時に、EPOC に診療経験にもとづく自己評価を行い、指導医による評価を受ける。
- 3) 診察態度や協調性について看護部及びメディカルスタッフ等による 360 度評価を行う。